

## 生活科・理科及び総合的学習における栽培活動の今後の在り方

野田 敦 敬

Atsunori NODA

(生物学教室)

### I はじめに

教育課程審議会の答申が7月末に出され、新学習指導要領の方向が明らかになってきた。今回の改訂の大きな柱として、教育課程の基準の一層の大綱化、その運用の弾力化が挙げられる。いわゆる、各学校が創意工夫を生かし特色ある教育、特色ある学校づくりを進めることである。その中心的な役割を担うべく、新たに「総合的な学習の時間」が創設された。学校5日制に伴う授業時数の削減に加え、小学校では、国語科、算数科に次ぐ、週当たりの授業時数となる「総合的な学習の時間」に当てられる時間数を繰り出すために、各教科は、授業時間数が大幅に削減されている。

このような状況の下では、各学年間、教科及び領域、総合的な学習の時間の関連を明確にすることで、削減された時間を補い、さらにゆとりにつながるような教育課程の編成が必要である。

そこで、本研究では、生活科及び理科、総合的な学習の時間で扱うことの可能な「栽培活動」に焦点を当て、その在り方を探りたい。

### II 低学年理科と生活科における栽培活動

#### 1 ねらいの違いから

かつての低学年理科での栽培活動は、植物の成長・変化していく様子を知ることによって重点が置かれ、栽培はそれらを知るための手段として考えられがちであった。したがって、教材も成長・変化がとらえやすいアサガオやヒマワリが全国一律で使われることが多かった。生活科においては、子供が植物を育てて楽しみ、自分の生活を充実させていくことが大切なねらいとなっている。子供が栽培したいという願いをもち、植物に親しむ中から、栽培の楽しさ、成長・変化、不思議さや面白さ、収穫の喜びなどを自分の成長とかさねて体験していくのである。

本研究では、同じ植物を扱いながら、ねらいが違う低学年理科と生活科の栽培体験を調査結果から、比較することによって、生活科、理科及び総合的な学習の時間における栽培活動の在り方を考察する。

#### 2 他の比較研究から

低学年理科と生活科を学んだ児童の比較については、日本理科教育学会拡大教育課程委員会が、1995年にいくつかの調査を行っている<sup>1)</sup>。この調査の中で、「理科」を1年から6年まで学習した児童と3年から6年まで学習した児童とでは、45%の教師が学力差が「ある」と回答している。その理由として、①「生活科での体験はこれまでの理科での体験と質・量とも異なる」、②「よかった楽しかったで終わってしまい経験が定着しにくい」、③「科学的な方法や考え方が育っていない」、④「自然に触れ合う機会の減少」が挙げられている。①については、既に述べたように教科のねらいが異なるので当然である。②については、教育課程審議会「中間まとめ」<sup>2)</sup>でも、「知的な気付きを深めることが十分でない」という指摘されており、この点を改善する方向で検討がされている。③については、①と同様生活科においては主なねらいではないが、科学的な方法や考え方の基礎を培う必要は感じる。④については、本研究で対象とした植物との触れ合いに関しては、反対に自然と触れ合う機会が増えているという結果が出ている。この調査の結果を踏まえながら、生活科・理科における栽培活動の在り方を考えたい。

#### 3 植物学習の関心度から

川上らが行った理科の学習内容別好き嫌いの調査によると<sup>3)</sup>植物に関わる内容は、小学生(3年から6年)においては、他の内容に比べて関心度は、どの学年においても低い。中学生、特に女子においては、学年が進むにつれて、関心度が高まり、中学3年では、関心度が最も高い内容となっている。これは、中学になると他の内容に比べ、身近な内容であることや実物に触れながら学習できることに起因していると思われる。栽培活動を考える上で、この調査結果は重要な示唆を与えてくれるものである。

### III 栽培活動についての実態調査

#### 1 調査のねらい

栽培活動を低学年理科で学習した世代と生活科で学習した世代で、栽培に対するイメージにどのような違

いがみられるかを調査によって明らかにしようと考え実施した。

2 調査の方法

(1)予備調査

自由記述による調査を行い、調査問題、選択肢などの吟味や調査学年を決定する。

調査対象と時期：愛知教育大学3年生52名（1997年6月実施）

名古屋市立橋小学校5年57名、3年生52名（1997年9月実施）

(2)本調査

調査方法：質問紙法（資料参照）

調査時期：1998年4・5月

調査対象：名古屋市立田代小学校3年127名

6年170名

名古屋市立弥富小学校3年117名

6年119名

名古屋市立桜山中学校3年226名

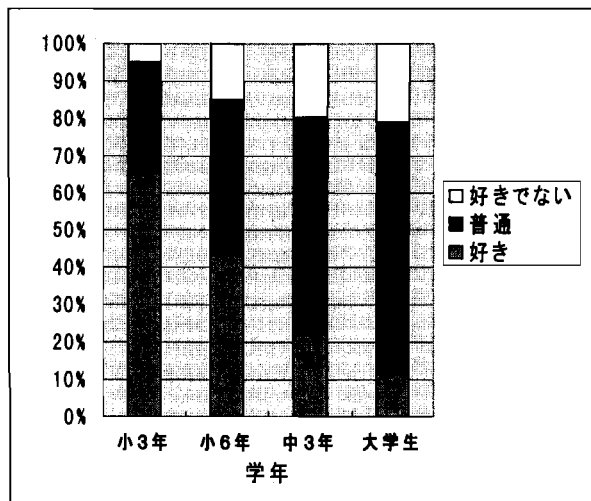
愛知教育大学3・4年 210名

各世代を抽出した理由は、小学校3年生は、生活科の学習を体験しただけの世代、小学校6年生は、生活科でも理科でも栽培を体験している世代、中学校3年生は、生活科の学習を体験せず、低学年理科を学習した最後の世代、大学生は、低学年理科を学習した世代である。名古屋市内の三つの学校は、学区が自然環境に恵まれていない都市型の学校を抽出した。

3 調査結果

(1)栽培活動の好き嫌いの調査

図1 栽培の好き・嫌いの調査



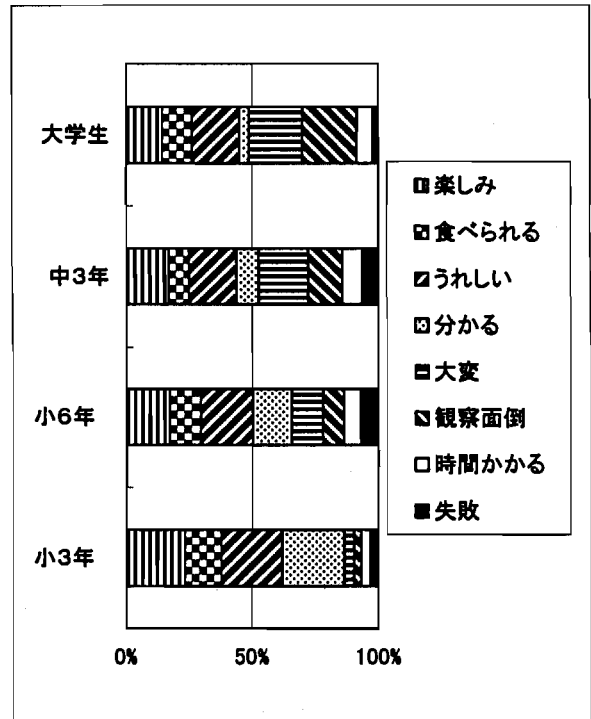
栽培活動について「好き」「普通」「好きでない」の3段階で調査をすると共に、その理由を8項目から自由選択させた。この8項目は、自由記述させた予備調査から、肯定的な理由4項目、否定的な理由4項目を挙げたものである。図1から、「好き」は、年齢を追うごとに少なくなり、反対に「好きでない」が増えてくる。図2を見ると、左から4項目が肯定的理由、右か

ら4項目が否定的理由になっている。この結果も好き嫌いの調査結果を反映したものとなっている。

図2から、否定的な理由としては、「世話をするのが大変」「観察記録をかくのが面倒」の2項目が年齢が上がるごとに増えていっているのが分かる。

また、肯定的な理由においては、「育つのが楽しみ」「食べられる」「花や実ができるとうれしい」は、どの年齢も大差ないが、「いろいろなことが分かる」の項目のみ、小学校3年と他学年で大きな差が見られる。これは、生活科では、植物とのより新鮮な出会いから、主体的なかかわりが生まれ、子供個々の中に、その子なりの気付きが形成されている結果ではないだろうか。したがって、生活科の活動において、気付きは常に形成されており、それを敏感に教師が把握し、より鮮明にするような支援が大切である。これが、教育課程審議会「審議のまとめ」で述べている「知的な気付きを大切にする」ということにつながる。

図2 栽培の好き・嫌いの理由



(2)栽培経験のある植物名調査

選択肢とした植物名は、予備調査で多かったもの上位20種を挙げた。小学校3年生でも大学生でも、一人が挙げた種類数は差がない。表1から、特徴的なことは、大学生では、ほとんどがアサガオ、ヒマワリを挙げている。また、当時も教科書に載っていたオジギソウ、コスモスなどの記述は著しく低い。これは、はじめに述べた中心教材による指導に偏りがちだった低学年理科の栽培の実態を反映している。反対に小学校3年、6年では、多くの種類について、満遍なく挙げられている。また、生活科の栽培の特徴でもある野菜類など食べられるものの栽培体験が増えている。

表1 低学年で栽培したことのある植物

植物名	小3年	小6年	中3年	大学生
アサガオ	◎96.3	◎97.6	◎96.0	◎98.1
ヒマワリ	○24.6	○32.5	◎54.9	◎76.2
トマト	◎94.3	◎73.7	○32.7	○11.9
チューリップ	◎56.1	○34.9	○24.3	2.4
ヒヤシンス	○13.5	○16.3	○23.0	○14.3
キュウリ	○25.8	○15.9	0.4	4.8
ナス	○22.5	○14.5	1.3	1.4
サツマイモ	○23.4	○11.3	4.4	2.7
オジギソウ	1.6	3.8	○11.9	1.9
ハウセンカ	1.2	4.5	7.1	○16.2
マリーゴールド	2.9	○10.0	○11.9	4.3
オシロイバナ	8.6	○18.0	7.1	2.4
パンジー	○13.1	○13.1	8.0	○15.2
スイセン	○36.9	7.3	8.4	1.9
エダマメ	7.0	6.2	2.2	2.4
ハツカダイコン	5.7	8.0	3.5	2.4
コスモス	4.9	7.4	4.9	2.2

(単位は%, ◎:50%以上, ○:10%以上)

(3)「栽培」から連想するものの調査

自由記述させた予備調査から、「栽培」という言葉から連想されるものは、次の五つのカテゴリーに分けられることが分かった。

- ①植物自体に関する内容 (花・葉・種など)
- ②成長条件に関する内容 (水・日光・肥料など)
- ③栽培に必要な道具等 (土・植木鉢・じょうろなど)
- ④活動に関する内容 (草取り・水やり・観察記録など)
- ⑤心情的な内容 (きれい・大切・苦勞・楽しみなど)

そこで、本調査では、各カテゴリーから5項目ずつ合計25項目を選択肢としてランダムに並べ、5個選択させた。

図3から、小学校3年では、「心情的な内容」の割合が他の年齢に比べて多い。これは、発達段階の違いにもある程度は起因しているが、生活科での栽培の特徴と言えよう。表2より、大学生では、「活動に関する内容」中でも「観察記録」「当番」「世話」という言葉が、他の年齢に比べて著しく多くなっており、栽培＝観察記録の強制＋当番による世話といったイメージが強く形成されていることが分かる。

(4)栽培の思い出の調査

栽培活動での楽しかったことやいやだったことなど思い出を自由記述させた。以下にその一部を示す。

〈大学生〉

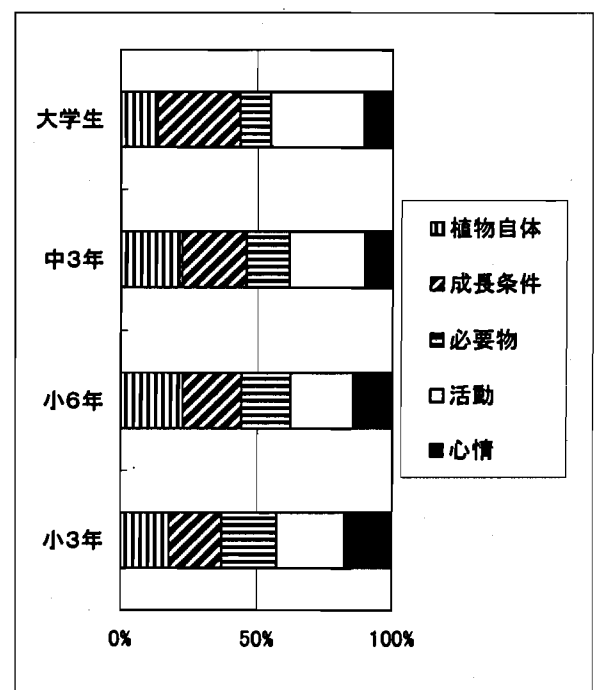
- ①小学校4年のとき、ジャガイモを栽培し、母と子供と一緒にカレーを作ったのがとても記憶に残っている。
- ②花や実ができたときは、すごくうれしかった。特にイチゴは、育てて2年目に実を付け、感動した。
- ③へちまを育てたとき、その実を使ってタワシをみんなで作った。うまくできて感動した。

表2 栽培のイメージ調査

項目	小3年	6年	中3年	大学生
花	62	144	118	90
葉	24	47	43	20
種	96	80	63	24
茎	6	8	5	2
根	16	6	8	3
植物自体小計	204	285	237	139
水	71	101	111	140
日光	49	83	71	100
温度	1	8	11	15
空気	23	19	9	14
肥料	81	62	51	41
成長条件小計	225	273	253	310
土	123	115	88	82
植木鉢	71	64	42	16
じょうろ	27	36	35	12
支え棒	13	6	3	2
シャベル	2	10	3	5
必要物小計	236	231	171	117
草取り	56	34	31	41
水やり	143	135	119	92
観察記録	19	36	52	88
当番	9	19	25	42
世話	63	67	67	90
活動小計	290	291	294	353
きれい	52	44	29	12
大切	48	34	11	3
苦勞・大変	15	43	50	77
楽しみ・喜び	59	42	17	15
一生懸命	29	20	6	2
心情小計	203	183	113	109

(単位は人)

図3 栽培のイメージ調査



- ④毎日、植物の様子を観察しにいて、世話をするのが面倒だった。
- ⑤絵が苦手で、観察記録に残すのは、いつも変わりばえがなくて好きでなかった。
- ⑥夏休みの当番制の水やりが、いやでしかたがなかった。
- ⑦夏休み前にアサガオの大きな植木鉢を持ち帰るのが大変だったことを覚えている。でも、夏の朝、花が咲いているのを楽しみにしていた。
- <6年生>

- ①食べ物を育てるのはすごく楽しみだけど、毎日世話をしているとめんどくさくなることもある。
- ②2年生の時、キュウリ、ナス、ハツカダイコンを育てて、みんなでおしたしにして食べた。
- ③芽が出たとき、花が咲いたときは、すごくうれしい。でも育つのに時間がかかり、世話を忘れてしまうこともあった。
- ④イネやトウモロコシを育てて、食べたとき、とてもおいしかった。
- ⑤観察していて絵をかいて、となりの子はすごくうまいのに自分は下手で、どんどん絵をかく時間が増えて観察がいやになった。
- ⑥野菜を育てていて、自分だけ芽が出なかったり、途中で枯れてしまったとき、とてもいやで、もうやりたくないと思った。
- ⑦生活科のときは、いろいろやれておもしろかった。
- 大学生①～③のように、栽培物を使って何かをした体験は、大人になっても強く印象に残るようである。大学生で特に多いのは、④～⑥のような記述である。栽培へのあまりよくない印象が残ってしまっている。

小学校6年でも、やはり食べた体験を挙げているものは多い。また、⑥のように失敗体験の記述も他の学年に比べて目立つ。これは、生活科での野菜などの栽培が、かつて低学年理科で扱われていたアサガオ・ヒマワリに比べて難しく、失敗も多くなってきたことの表れだろう。失敗も貴重な体験ではあるが、それがもとで、栽培嫌いになってしまわないような配慮が必要であろう。

#### 4 結果のまとめ

生活科での栽培を経験した小学生と低学年理科での栽培を経験した中学校3年生、大学生の意識を比較すると、低学年理科では、成長の過程の認識に重きを置きすぎた結果、観察日記をつけることに苦痛を感じ、栽培が嫌いになる傾向が、調査(3)及び調査(4)から読みとれる。また、理科では、一種の中心教材の学習に陥りがちである。生活科では、栽培種も多く、個々の願いに応じた栽培をし、栽培の楽しさを味わっていることが、栽培のイメージの「情情的な内容」から分かる。大人になっても自ら栽培に取り組むことができるような植物との触れ合いを生活科を中心とした小学校教育

で培う必要を感じる。

#### IV 授業への適用

本調査結果に基づき、今後生活科、小学校の理科及び「総合的な学習の時間」において、どのように栽培活動に取り組みばよいか考えを述べたい。

先に示した川上(1998)が行った理科好嫌に関する調査研究によると、小学校では、植物を扱う内容は、他の内容に比べて関心が低いことが明らかになってきている。では、どうすれば関心が高まるのか。簡単に言えば、本調査(1)における好き嫌いの理由で、肯定的な部分を延ばし、否定的な部分を克服するような指導計画を考えればよい訳だが、なかなか難しいことである。

まず、生活科では、より多様な植物の栽培に取り組みせたい。子供の思いや願いを大切にする生活科の趣旨から言っても、1・2種類の栽培種では、個々の思いや願いを生かすことができない。調査結果では、低学年理科のころに比べて、多くの植物の栽培経験があることが分かってきているので、さらにこの方向を伸ばしていきたい。また、栽培活動のから季節の変化を味わうことのできるような配慮も必要である。子供の生活から季節感というものが今や消えていきつつあるからである。現状の生活科における栽培は、春から夏にかけての栽培種がほとんどであり、秋から冬または春にかけての栽培種は少ない。今後は、こういったシーズンに栽培できる植物にも取り組みせたい。幸い教育課程審議会「審議のまとめ」<sup>(4)</sup>でも、2年間を通した教育課程が組めるような方向にあり、学年をまたがるような植物の栽培も可能になってきた。秋以降の栽培は、夏休みのような長期休業もなく管理や世話しやすいと考える。ぜひ、秋まきあるいは秋植えの学習材の開発をしてほしい。春から夏、夏から秋、秋から冬そして春と栽培物とかが変わった経験は、4年生理科で学習する季節の変化と生物の様子基礎体験につながるものである。

生活科における植物とのかかわらせ方は、現状の方向をさらに進めるようにしたい。すなわち、観察中心でなく、自分とのかかわりで、より情情的なかわりに重点を置くような支援を考えてほしい。植物との対話に楽しみや喜びをこの時期に体験させておきたい。

さらに詳しく述べると、生活科において「観察する」とは、「何かを明らかにするために諸感覚を用いて、既有経験と関係づけたり、対象を見直したりして、客観的なことを見い出す」<sup>(5)</sup>ような理科的な観察ではない。生活科では、「観察」は、単なる方法でなく、目標でもあり内容でもある。既有経験の乏しい低学年の児童にとって、栽培を通して、植物と触れ合う中で、植物を見る自分なりの枠組みを作っていくことになる。言い換えると、自分なりの願いを込めたり、思いを入れた

りして植物を見ることになる。このように生活科では、観察の視点も個々で異なり、より主観的な観察となろう。したがって、この観察から得られた気付きも一人一人違ってくる。

理科では、一つの栽培種による学習からの脱皮を図りたい。現行の教科書を見ると1種類の中心教材を補う植物が載せてあるが、現状は中心教材（3年：ヒマワリ、4年：ヘチマ、5年：インゲンマメ、6年：ジャガイモなど）とされている植物へのウエイトはかなり高い。その原因としては、指導時間が少なく、栽培する場所もないので中心教材だけを取り上げざるを得ないというのが現状であろう。ますます、時間数は減るばかりで小学校3年生などは2/3になってしまう。こうなれば、さらに中心教材だけの植物学習となり「学習のための栽培」に陥り、栽培の過程で体験できるプラスアロファの部分がなくなり、栽培がおもしろくなくなっていくであろう。

そこで、特に中学年では、「総合的な学習の時間」で栽培活動を取り上げたい。「総合的な学習の時間」は何も例示された「国際理解」「環境」「情報」「福祉・健康」を中心に扱う必要はない。教育課程審議会「審議のまとめ」<sup>9)</sup>では、「総合的な学習の時間」の学習活動として、「児童・生徒の興味や関心に基づく課題」「自然体験・・・ものづくりや生産活動などの体験的な学習」を上げており、この意味では、「栽培活動」は打ってつけではなかろうか。また、栽培活動は、自然に恵まれていない地域でも校内でも可能な体験活動である。すでに、総合的な学習として栽培学習に取り組んでいる例もある。

名古屋市立弥富小学校3年生では、「総合的な学習の時間」を試行して、「花の時間」を設定し栽培活動に取り組んでいる<sup>7)</sup>。同校では、「体験の中から課題を見つけ追求する児童」の育成を目指し、1種類だけでなく、各自の育てたい様々な種類の花作りに取り組んでいる。できるだけ多くの栽培種を扱うことは、生物の多様性と斉一性の理解にもつながり、理科学習の側面からみても有効である。

また、一つの植物の栽培を中心に据え、横断的な学習に取り組んだ例もある。

名古屋市立大清水小学校5年生では、地域の農家で栽培が盛んなブドウの一人一鉢栽培に取り組んでいる<sup>8)</sup>。この栽培活動を通して、理科では、植物の成長条件の学習、社会科では、農家の生産への工夫・願いの学習、家庭科では、ブドウを使ったおやつ作りの実習、道徳では、生命愛護や郷土愛を培う学習など横断的な学習を進めている。このように、できれば高学年でも実ができて、食べることのできる植物を学習材として取り上げることで、栽培の喜びを味わわせたい。この小学校時代の体験こそ、生涯に渡って植物好きにする素地を培うことになろう。

ぜひ、「総合的な学習の時間」に栽培活動を取り入れた教育課程を編成することが必要である。

## V 指導計画案

上記の項目で示した内容を具体的な指導計画案として次に示す。

学年	教科	学習材及び活動内容、学習内容
1年	生 活 科	(春) アサガオ, マリーゴールド, サルビア, コスモス, オシロイバナ, フウセンガズラなどから自由選択 ・種の誕生日会, ・地域の人々に花の苗配り, ・花や実を使った草花遊び
		(秋) スイトピー, パンジー, サクラソウ, スイセン, チューリップ, ヒヤシンス, クロッカスなどから自由選択 ・卒業式, 入学式などを花で飾る
2年	科	(春) ハツカダイコン, ミニトマト, ナス, オクラ, エダマメ, サツマイモなど ・サラダパーティ, ・収穫祭 (秋) ダイコンを育て, おでんの具の買い物体験を含めた「おでんパーティ」を12月から1月に実施
		理科 / 総合的な学習の時間
3年		イチゴ ・2年生の秋から育て, ジャム作り ヒマワリ, オシロイバナ ・育ち方の順序 ・植物のつくり キャベツ, パセリ ・モンシロチョウ, キアゲハの成長 ワタ ・クッション作り
4年		ヘチマ, ヒョウタン, キューリ, カボチャ, ツルレイシなど ・植物の成長の天候, 季節による違い ・ヘチマのたわし作りや化粧水取り ・ヒョウタンのマラカス作り ・キューリ, カボチャの調理
5年		インゲンマメ, イネ, トウモロコシ, ダイズ カイワレダイコンなど ・種子の養分 ・成長条件 ・米作り ・ポップコーン作り ・豆腐作り, 味噌作り, きなこ作り

6年	ジャガイモ, ホウセンカ, セロリ ・でんぶんのでき方 と蓄積 ・水や養分の通り道  アイ, ソバ ・染め物作り ・そば作り
----	---

- \* 文献9), 10) を参考に作成した。
- \* 各学年に食べることでできる活動を入れた。その際, できる限り, 理科の中心教材及び学習内容との関連を図った(4・5年生)。
- \* 校内で栽培可能な植物を学習材として取り上げた。ウメやイチョウなど校内に実のなる木がある場合は, それらを利用した総合的な学習の時間の活動も可能である。
- \* できるがぎり地域の特産物を取り上げるようにしたい。

## VI おわりに

植物を育てる活動は、「園芸療法」といった心や体を癒す一つの方法にもなっており, 心の教育を進める上でも有効な方法であることは明らかである。園芸療法の研究者は, 次のように言っている。「植物を育てていくことで, 自然に責任感が生まれるし, 体を動かすことで気分を切り替えられる」[植物を育てることは奥深い不思議な力がある。受動的だった人が自分より力の

ないものを世話することで能動的になる]<sup>11)</sup>生活科や総合的な学習の時間での栽培でも, このような児童の姿を期待したいものである。

各学校では, 本格的に学校の特色を生かした「総合的な学習の時間」の指導計画の作成に入ることだろう。その際, 本研究で示した児童の興味・関心が高まる栽培活動の在り方や指導計画案を参考にいただければ幸いである。

## 参 考 文 献

- 1) 野上智行「生活科と低学年理科教育との関連(2)」日本理科教育学会「理科の教育」1996年2月号, pp.50-55
- 2) 教育課程審議会「中間まとめ」1997年11月
- 3) 川上昭吾 他 「児童の理科教育の内容好嫌の実態と科学的知識の認識過程を生かした教育方法の開発研究」1998年3月
- 4) 教育課程審議会「審議のまとめ」1998年6月
- 5) 井口尚之編「新理科教育用語辞典」初教出版, 1991年, p.70
- 6) 教育課程審議会「審議のまとめ」1998年6月
- 7) 牧野全孝「体験の中から課題を見つけ追究する児童の育成」平成10年度名古屋市教育研究員研究要録, pp.49-56
- 8) 竹内俊明「たくましく問題に立ち向かう力が育つ横断的学習」平成9年度名古屋市教育研究員研究要録, pp.89-96
- 9) 「食農教育」農文協, 1998年夏創刊号
- 10) 「たのしい飼育と栽培」新潟県地区理科教育センター研究協議会, 1995年
- 11) 嶋野道弘著「ちょっとチェックを生活科学習指導論」東洋館出版, 1996年, pp.234-235

(平成10年9月9日受理)

資料：小学校3年生用調査用紙

## 「しょくぶつを育てる」ことについてのしつもん

名前

- 1 あなたは、しょくぶつを育てることをどのように感じていますか。つぎの三つの中で一番近いものに○をつけてください。
- ( ) すきである ( ) ぶつう ( ) あまりすきでない。

上のわけに近い文の( )に○をつけてください。いくつつけてもよい。

- ( ) 育っていく ようすを見るのが たのしみだから  
 ( ) 水やりや草とりなど せわをするのが たいへんだから  
 ( ) やさいは、自分で育てたものを 食べることができるから  
 ( ) かんさつしたり かんさつきろくを かいしたりするのが めんどうだから  
 ( ) 育つまでに 時間がかかるから  
 ( ) がんばって育てて 花がさいたり 実ができたたりすると うれしいから  
 ( ) かれさせて しまったことが あるから  
 ( ) 育ててみると いろいろなことが わかるから

そのほか( )

- 2 あなたが、1・2年生のとき 育てたことのある しょくぶつの名前を思い出して ( )に○をつけてください。

- ( ) アサガオ ( ) ヒマワリ ( ) トマト・ミニトマト  
 ( ) ダイコン ( ) キューリ ( ) チューリップ  
 ( ) コスモス ( ) サルビア ( ) オジギソウ  
 ( ) エダマメ ( ) ホウセンカ ( ) オシロイバナ  
 ( ) マリーゴールド ( ) ハツカダイコン ( ) ナス  
 ( ) クロックアス ( ) ヒヤシンス ( ) スイセン  
 ( ) パンジー ( ) スイトピー ( ) サツマイモ

そのほか( )

- 3 「しょくぶつを育てる」ということばから 思い出すことばを 五つえらんで ( )に○をつけてください。

- ( ) 水 ( ) 花 ( ) 草とり ( ) 土 ( ) きれい  
 ( ) 葉 ( ) 水やり ( ) うえきばち ( ) たいせつ  
 ( ) 日光 ( ) たね ( ) じょうろ ( ) くろう・たいへん  
 ( ) たのしみ・よろこび ( ) かんさつきろく ( ) くうき  
 ( ) てきとうなおんど ( ) くき ( ) とうばん ( ) ひりょう  
 ( ) せわ ( ) いっしょうけんめい ( ) ささえぼう  
 ( ) いしょくごて・シャベル ( ) ね

- 4 しょくぶつを育てたとき 楽しかったことや いやだったことを 思い出して 書いてください。いくつ書いても いいですよ。(うらへ)